

平成29年度

教育文化学部国際交流等学術研究交流基金

事業報告



秋田大学教育文化学部

国際交流委員会

# 事業概要

本学部平成 29 年度の国際交流等学術研究交流基金の助成事業として、下記の 1 件が実施されました。概要は下記の通りです。

事業： 韓国語教育と伝統文化の体験および聖公会大学校学生との交流等への参加

派遣者： 教員 1 名

高村竜平准教授（地域文化学科人間文化コース）

学生 2 名

中野佑香（地域文化学科 2 年）

加藤愛生奈（地域文化学科 2 年）

派遣期間：2017 年 8 月 5 日～2017 年 8 月 20 日（16 日間）

派遣研究機関名：

英文 Korean Language School, Sung Kong Hoe University

和文 聖公会大学校 韓国語学堂

※ 詳細については、次頁以降の報告書に記載されてあります。

# 「教育文化学部国際交流等学術研究交流基金の事業助成」実施報告

平成 29 年 9 月 26 日

教育文化学部長 殿

所属・職名：地域文化学科准教授 講座 人間文化  
氏 名：高村竜平

助成区分：

- 本学部が中心となって実施する協定締結校（締結予定大学を含む）との交流事業に要する経費
- 本学部及び教育学研究科の学生の海外派遣に要する旅費等
- 本学部が中心となって開催する国際的な学会等経費
- その他国際交流等学術交流の促進に要する経費

事業期間：2017年8月5日～2017年8月20日（16日間）

派遣研究機関名／招聘研究者所属・氏名

英文 Korean Language School, SungKongHoe University

和文 聖公会大学校 韓国語学堂

## ○助成金使用状況について

事項	助成決定額	支出額
①渡航費	150,000	150,000
②宿泊費・日当		
③謝金		
④その他経費（内訳）		
・		
・		
合 計	150,000	150,000

※必要に応じて行を追加してください。

## ○事業概要

韓国・ソウル市の聖公会大学校韓国語学堂で開かれる、夏期短期研修に参加し、韓国語教育と伝統文化体験、聖公会大学校学生との交流等に参加した。プログラムは8月5日から19日までである。立教大学・大阪産業大学・恵泉女学園大学・香川大学などから合計35名の学生が参加し、本学の学生は地域文化学科二年生二名であった。宿泊には聖公会大学校の寄宿舎が提供され、引率者も同じ寄宿舎

に宿泊した。

初日にプレイスメントテストを行い、4段階のクラス編成を行った。授業は平日の午前中に50分×4コマの授業を合計10日間行い、そのほか聖公会大学校学生との交流の時間が90分×2回、民俗音楽および人形作り体験がそれぞれ120分、演劇鑑賞を120分という文化体験プログラムがあった。とくに学生との交流の際には、直接同世代の学生同士で韓国語と日本語によるコミュニケーションをとる貴重な機会であった。授業およびスピーキング・ライティングテストの内容により、最終日に成績表と修了証が与えられ、本学部の二名の学生はいずれも無事修了した。

授業時間だけでなく、文化体験プログラムのない日や週末には自由時間があり、自分たちで地下鉄などを利用しソウル市内を行動することで、実際の韓国語使用の機会も得られたことも貴重であった。

### ○事業の実施により期待できる効果と意義

この研修プログラムはレベルごとのクラスが構成され、能力にあわせて学ぶことで効率的に語学力を身に着けることが可能である。今年度はプレイスメントテストの結果により1-1、1-2、1-3、2-2の4クラス（数字が増えるほど高級）が開設されたが、本学科学生は1-3と2-2にそれぞれ1名ずつ配属された。今年度の受講生は全員日本人であったが、直接法（教師の説明自体を韓国語で行う）により授業が行われたため、とくにリスニング・スピーキングについて効果的な授業である。また語学教育を受けるだけでなく、同世代の韓国人との直接的な交流の機会もある。実地での韓国語使用が可能で、また現地の事情や人々の考え方を直接知ることができ、現在難しい関係にある隣国への理解が促進される。さらに同じく韓国に関心を持つ他大学の学生との交流も行うことができる。

### ○事業期間全般にわたる感想と課題

本年度初めての事業であり引率者としても分からないことが多かったが、聖公会大学校の受け入れ体制や施設などは充実しており、来年度以降も参加したいと考えている。授業がレベルごとにシステマティックに運営されていること、体験プログラムが充実していることが感じられた。滞在中には、日本側の引率者と聖公会大学校側の担当者との意見交換の機会も複数あり、協力してプログラムを充実させてきたことがうかがえる。派遣大学の選抜方針が多様であるため、さまざまなレベルのクラスが構成されたが、1年次を中心として選抜している大学から多数の学生が参加していた（とくに立教大学と恵泉女学園大学）ため、初級クラスが中心となった。本学部においても、一年生から四年生までの全学年の参加が可能と考える。ただし、現在本事業の募集時期が前年2月となっているため、一年生の参加が不可能となっている点が課題である。

学術研究交流基金の支援をいただいたほか、チェ・ソンジンさんをはじめとする聖公会大学校韓国語学堂の教員・担当者みなさん、また引率者として参加した立教大学石坂浩一教授と大阪産業大学藤永壯教授にたいへんお世話になり、無事研修を終えることができた。感謝いたします。



プレイスメントテスト



民俗音楽の体験



修了証を手に

# 短期研修報告書

教育文化学部地域文化学科 2 年次 中野佑香  
加藤愛生奈

## 授業について

授業はパワーポイントを用いて、ほとんどが韓国語で行われたが、使われる単語はほとんどが簡単なものであったり、事前に秋田大学で習った文法ばかり取り上げられたため、大体は理解することが出来た。また、知らない単語を調べる時間を先生が設けてくれたり、日本語を交えて授業してくれたりしたため授業から大幅に後れを取ることはなかった。教科書と異なる内容については、先生がそれを踏まえて上で丁寧に説明してくれた。

教員の方々は全員親切で、日本語を話すことができる先生と話すことの出来ない先生がいた。そのため、授業の内容を質問する時も韓国語で話さなければならないこともあり、自分の思うように話すことが出来ずもどかしく感じることもあった。しかし、カカオトークや LINE などの SNS を使用して質問することも出来たため、特に困ることはなかった。また、授業で話題に出てきた地名やものに関する情報やおすすめの場所を紹介してくれたおかげで、午後の自由時間に役立てることも出来た。

授業は研修に参加した他校の生徒と共に受講し、共通の趣味などで話が盛り上がる事ができた。また、先生が休憩時間に K-POP をスクリーンに映してくれることも、話をしやすい環境にしていたと感じる。

コミュニケーションの授業では、中々思うように話すことが出来ず、また日常会話を行うにあたって知らない単語が多く使われたため、理解することも本当に難しかった。私のグループはあまり韓国語を話すことが出来なかったため、グループ担当の韓国の生徒が日本語を話すことが多くなってしまった。

## 文化体験について

1 つ目に、韓国の伝統楽器を体験するサムルノリ体験は、中々できない体験であり、楽しかった。楽器の鳴らし方を説明する際に、現地のサークルの学生が韓国語で説明し、それを日本語に通訳してくれる方がいたのだが、他の楽器の音などと重なって聞き取れず、理解できない部分もあって残念だった。

2 つ目に、韓国の伝統的な人形作りは思ったよりも難しく、紙が切れてしまって大変だったが楽しかった。また、人形作りと重ねて着物とチョゴリの違いや、チョゴリの特色、昔の韓国人のチョゴリに対する概念なども教わる事が出来、貴重な時間になった。

最後に、ミュージカルは非常に面白く、韓国語をほとんど使っていないため純粋に楽しむことが出来た。外国人の観光客の方が大勢いたが、先程述べたように韓国語をほとんど使わないため良い思い出になると思う。